

本院で TAVI (最新の弁膜症治療) ができます

心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科
講師 加賀 重亜喜

TAVI (経カテーテル的大動脈弁植え込み術)は、大動脈弁狭窄症に対する最新治療です。足の付け根などからバルーン(風船付き)カテーテル(縮ませた風船の上に折り畳まれた人工弁「生体弁」を搭載)を挿入し、大動脈弁の内側で拡げて生体弁を植え込みます。開胸も心臓を止める必要がなく身体にかかる負担が少ないので、これまで外科手術が困難と判断された、高齢で体力の落ちている患者さんや他の病気を患っている患者さんにも治療を受けていただくことが可能となりました。

日本では、平成25年10月に保険収載されました。これまでに3,000例以上の患者さんがTAVI治療を受けられています。TAVIは心臓/血管に対するカテーテル治療件数・心臓手術件数や治療する環境整備など、厳しい基準をクリアした施設

しか実施できない治療で、本院は平成29年7月3日に山梨県内で唯一のTAVI実施施設となりました。10月11日に、80代女性の患者さんに県内初となるTAVIを実施しました。患者さんは、治療からわずか9日目に元気に退院されました。

体力が落ちている方が受けることの多いTAVIは、カテーテル治療医のみで実施できるわけではなく、それぞれの分野に精通した多職種医療スタッフの力の結集による、全人的な診療が不可欠となります。本院では、心臓内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、放射線科医、看護師、臨床工学技士、放射線技師、臨床検査技師、リハビリ技師等が集結して、専門分野を横断したハートチームが万全の体制で診療にあたっております。健康寿命日本一の山梨県の皆様が、これまで以上に長

く元気で生活していただけるように、我々ハートチームが全力でサポートしてまいります。



TAVIで留置される人工弁

左:折りたたまれた人工弁を装着したカテーテル

右:バルーンを膨らませた時のカテーテル

カテーテルを用いて大動脈弁の位置に到達した人工弁

実際に大動脈に留置された人工弁

輸血機能評価認定制度(I&A)の認定について 輸血細胞治療部

輸血細胞治療部が中心となり院内全職員で協力して、平成29年4月1日からの輸血機能評価認定制度(I&A)の認定を取得いたしました。

このI&Aとは、指針やガイドラインに準じて標準的な輸血医療を実践するための必須事項を認定基準として、輸血を専門とする視察員によって点検(inspection)して認証(accreditation)する制度です。私たちは本認定取得により、輸血管理体制や医療安全の向上のみならず、病院内の他部門との連携強化、病院施設の価値向上が得られたと自負しております。

アメリカでは、輸血部の業務はアメリカ輸血銀行協会の監査により認定されていることが必須です。日本の輸血医療では改正薬事法、血液法により安全の保証と適正使用が求められているにもかかわらず、その運用に関しては、各医療機関の自主性に任されているのが現状です。このため輸血療法や輸血管理手順の標準化を図り、病院規模に関係なく等しく安全で適正な輸血が実施されるように、近年では日本輸血・細胞治療学会の活動により受審施設が増加しています。

輸血細胞治療部では、安全で適正な輸血医療の実践、診療科支援、患者さんへの貢献ができるよう今後も努めてまいりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



採痰ブースと独立空調診察室の紹介 感染制御部

感染症の中には、肺結核のように空気中を漂う菌を吸い込むことで感染してしまう病気があります。本院は、県内唯一の特定機能病院として県内外から多くの患者さんが受診されており、このような病気が疑われる患者さんもいらっしゃいます。本院では医療関連感染防止を重視しており、全ての患者さんに安心して安全に医療を受けていただき、また医療者も十分な体制で最善の診療が行えるように、これらの感染症が疑われる患者さん専用の採痰ブースと、独立空調の待合室兼診察室を設置しております。車いすの患者さんも利用が可能な仕様となっています。一般の患者さんが移動される経路とは異なる順路でアクセスが可能です。

採痰ブースを使用する場合は、医療スタッフが付き添いますので、不明の点は医療福祉支援センター(⑦番窓口)にお問い合わせください。



地域連携の推進について 医療福祉支援センター

現在、本院では地域の医療機関との「地域医療連携」の強化に積極的に取り組んでおります。その一環として、本院の取組みに対し、ご賛同いただいた県内146の医療機関に「地域医療連携登録証」を発行させていただき、当該医療機関のリーフレットを外来ホールに設置いたしました。

「地域医療連携」では、お近くの医院や診療所からの紹介により、本院で専門的な検査や高度な医療設備での治療などを行ったあと、病状が安定した場合には、本院から紹介元や地元の医療機関へ逆紹介します。その後、再び本院での受診が必要となった場合、紹介状により診療データの共有を図りながら受診していただきます。

地域医療連携に関するご相談がある方は、主治医または医療福祉支援センター(⑦番窓口)にお問い合わせください。



ローソン山梨大学医学部附属病院店オープン!

中央診療棟1階で営業しております病院売店が、患者さんの利便性向上等を目的にコンビニエンスストア「ローソン」としてリニューアルオープンいたしました。ローソンで取り扱っております弁当・パン・惣菜類や挽きたてのコーヒー等も販売され、これまで以上に品揃えが充実しました。

加えて、ATM・チケット発券サービス「Loppi」・収納代行・一部通販商品の受取など、通常のローソンで提供されているサービスの他、ポイントカード「Ponta」や各種電子マネー・クレジットカードもご使用いただけます。さらに、各種キャンペーン・フェアも実施され、郵便物の発送もできます。

また、従来提供しておりましたお見舞品や院内用シューズや着替え、紙おむつ等の販売の他、付添人ベッド・松葉杖貸出、分娩セット販売、新聞病室配達等、病院売店ならではの商品・サービスも引き続きご利用いただけます。

なお、本売店では社会貢献の一環として、県内の社会福祉法人で作られたお菓子等も取り扱っております。ぜひご利用ください。

ローソン山梨大学医学部附属病院店

場所: 病院1階 食堂「つどい」東向かい

営業時間:

平日24時間(月曜・祝日後の平日 8:30~)

土曜 ~ 19:00

日曜・祝日 9:00~19:00



副院長就任のごあいさつ

副院長（保険診療・感染対策担当）波呂 浩孝

平成29年10月より、武田正之病院長から副院長を拝命いたしました。担当は保険診療と感染対策になります。専門は「整形外科」で、運動器（小児から高齢者までの脊椎、脊髄、四肢）の疾患を担当しております。

本院は、22診療科と25診療部門から構成されています。医師や看護師のほかに、リハビリテーション部や放射線部、検査部などの技師、その他事務部門を含めて多くの職種で運営されております。主な任務は、地域の拠点となって高度先進医療を実践し、医学教育と研究を行うことです。患者さんやそのご家族にとって、本院が保険医療機関として、適切な医療を実施していることが重要です。全職員が一丸となって、適正

な保険医療の実施に向けて誠意をもって取り組んでおります。

また、感染対策も病院の運営では極めて重要な任務です。患者さんも、医療施設における院内感染についての報道に触れることがあると思います。本院では、重症の疾患に罹患された患者さんの治療を担当することが多く、全身状態が芳しくなく、感染症発症の危険が高いと考えられることがあります。感染対策についても、最新の知識と設備をもって、迅速・的確・安心な対策で、患者さんや職員を医療関連感染から守っていきたく思います。

良い医療に向けて努力していきたく思いますので、ご協力を何卒お願いいたします。



3台目の小児用車椅子を寄贈していただきました

平成29年8月4日に、昨年に引き続き、チャールズプロジェクトから車椅子を寄贈していただきました。

チャールズプロジェクトでは、「チャールズ!ハートをさがす」という絵本の売り上げ収益を子供用車椅子の普及にあてる活動をしています。

昨年、2台の車椅子を寄贈していただき、今回は、小児科病棟スタッフの要望を取り入れて、脱着式アーム・ヘッドサポートや脚部エレベーター等のついた多機能なリクライニング車椅子と、軽量で伸縮・脱着自在な点滴棒やシートベルトを寄贈していただきました。

武田病院長、佐藤看護部長から「とても素敵な車椅子をありがとうございます。素晴らしい活動をされているチャールズプロジェクトの皆様や、この活動に賛同して本を購入された皆様の心のこもったご支援、大切にに使わせていただきます。」との感謝の言葉と共に感謝状が贈られました。



消防訓練を行いました

平成29年10月4日に附属病院消防訓練を行いました。

今回は夜間に新病棟1階栄養管理部から火災が発生したことを想定し、自衛消防組織（災害対策班）による、通報・連絡・初期消火・避難誘導等の訓練を実施しました。火災発生現場では、消火活動および仮想入院患者の避難誘導、火災発生現場直上階では、手術中の仮想入院患者の避難・処置を行いました。各病棟からは、医師・看護師が避難経路をそれぞれ判断し、仮想入院患者の様態によって、付き添ったり、担架を使用するなどして、大学南西の体育館に設置された前線医療本部まで避難誘導しました。

また、消防訓練終了後は、例年行っている屋内消火栓による放水訓練や、消火器による消火訓練に加え、今回は「煙体験ハウス」による煙中避難訓練を行いました。煙中避難訓練では、数十センチ前方さえも見えないことを体験し、改めて火災の脅威を感じるとともに、訓練の大切さを確認しました。

本院では、消防・防火に対する意識の高揚を図り、万が一火災発生の際も人的被害を最小限に抑えるため、定期的に消防訓練を行っています。



診療科のご紹介

神経内科

神経内科ってどんな病気を診るの？

神経内科では、脳・脊髄・末梢神経・筋の内科的疾患の診療を行っています。具体的には、アルツハイマー病などの認知症疾患、パーキンソン病・脊髄小脳変性症・痙攣性対麻痺（けいせいついまひ）などの変性疾患、脳梗塞などの脳血管障害、ウイルスや細菌による髄膜炎や脳炎、多発性硬化症などの免疫疾患、ギラン・バレー症候群などの末梢神経障害、多発性筋炎や重症筋無力症などの筋疾患の診断・治療を行っています。

これまでは、難治性の疾患が多いとされてきた神経内科疾患ですが、毎年のように新しい内服薬や注射薬が使用可能となっており、患者さんの日常生活の質の向上に大いに役立つことができています。また、筋萎縮性側索硬化症（きんいしゅくせいそくさくこうしょう）などの神経難病と言われる疾患についても診断はもとより、患者さんの要望を取り入れた療養環境の構築など、医療福祉支援センターと協力して診療にあたっています。

当科対象疾患には、高齢になると増加する疾患が多く、年齢が高いから仕方がないと諦めず、ぜひ受診をお願いします。治療方針が決まったら、地元のかかりつけ医で診療を継続することも可能です。神経内科スタッフは、患者さんに寄り添う医療を心がけておりますので、多くの患者さんの受診をお待ちしております。



病室における教授回診の様子

頭頸部・耳鼻咽喉科

頭頸部・耳鼻咽喉科は、首から上の脳と眼を除いた部位の、耳・鼻・のど・甲状腺の外科手術を担当しています。

耳では聴力改善の手術、鼻では内視鏡による副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎の鼻水や鼻づまりを改善する手術、のどでは扁桃腺や声帯ポリープの摘出などです。また、補聴器も使えない高度難聴の方には人工内耳埋込術を行っており、これは県内唯一の施設です。さらに、舌がん、喉頭がん、咽頭がん、鼻のがん、唾液腺のがん、甲状腺がんなど、頭頸部にできるがんの手術も多数行っています。

のどのがんは抗がん剤と放射線療法の併用治療も多くなりました。しかし、その治療が難しい方に行いますと、治療後に誤嚥（ごえん）して肺炎になり体力を消耗し日常生活に支障を来す場合もあります。一方、声帯を摘出する手術では、県内で唯一「声」を取り戻すシャント発声の手術を行い、声を取り戻して元気に社会復帰していただいています。さらに、外来での手術や治療も行っています。声帯麻痺ではアテロコラーゲンの声帯内注入を行い、声の改善を図っています。アレルギー性鼻炎の方には、根治療法である舌下免疫療法を行い、薬からの開放を目指しています。



内視鏡下鼻内手術の様子

病院全体がひとつのチーム

看護師募集

山梨大学医学部附属病院 医学域総務課 055-273-9183